

環境省実証事業

実証対象事業に関する説明資料 (株式会社ウィファブリック・日本語版)

みずほリサーチ&テクノロジーズ

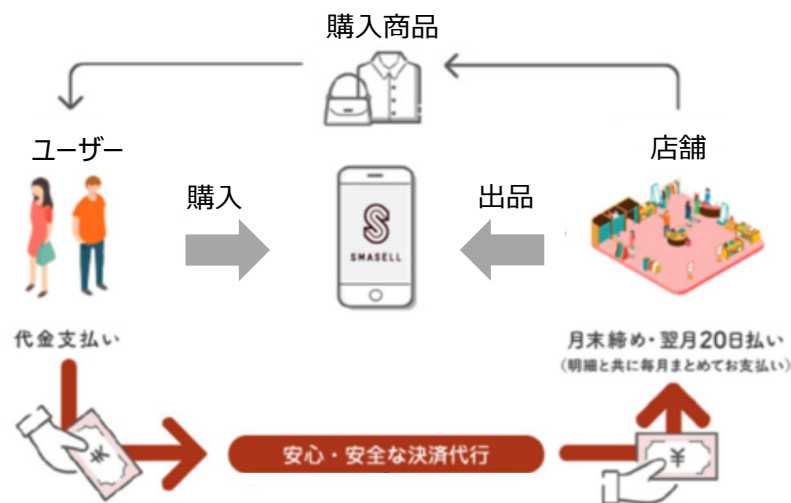


(1) 事業概要 ウィファブリック : SMASELL

- ウィファブリックでは、衣服や服飾雑貨等の繊維製品を主な取扱商品とするオンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」を2017年から運営。
- 本サービスは世界で社会問題となっているアパレル製品の大量廃棄の課題解決に貢献しており、「お得に買って、地球を守る」というスローガンと共に展開。
- 主な取扱商品はアパレルメーカーやショップで生じるデッドストック（売れ残り商品）や古着である。

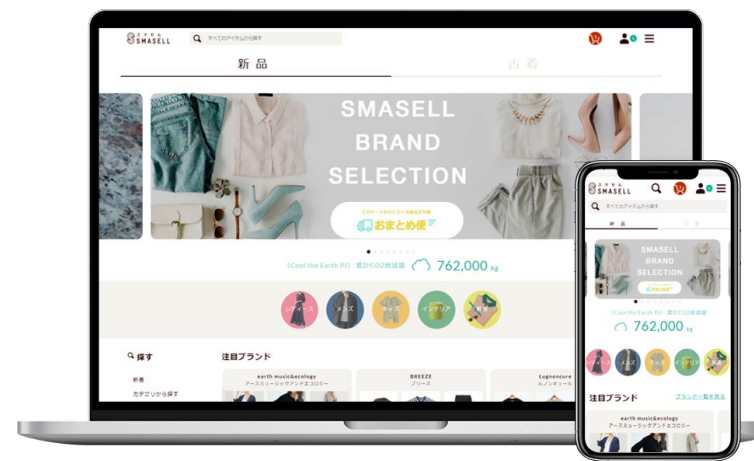
企業名	ウィファブリック株式会社
設立年	2015年
本社	大阪府大阪市西区
従業員数	20名（2022年現在）
事業内容	アパレルのオンラインマッチングプラットフォーム運営事業
資本金	1,764万円
地域	• 大阪本社及び東京オフィス • 国内出荷拠点

SAMSELLの仕組み



(出典) ウィファブリック提供資料

SMASELLの利用イメージ



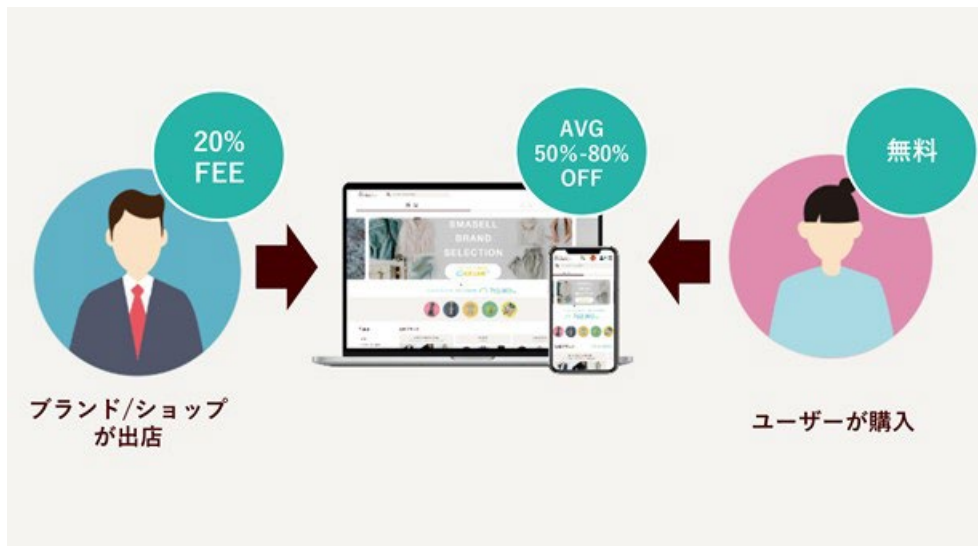
(出典) SMASELLホームページ

(2) 事業概要

ウィファブリック：
オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」

- SMASELLは約1,200社のサプライヤーと16万人のユーザーが参画しており、法人には著名ブランド企業も多数参画している。
- サプライヤーであるブランドメーカーはファッションやインテリアなどの様々な商品をSMASELLに供給しており、成約した際には販売価格の約20%を手数料としてSMASELLに支払っている。
- ユーザーには商品をお得に購入したい主婦をはじめ、男性や若年層など幅広いユーザーがおり、平均50～80%、MAX98%OFFで購入できる。有名アパレルブランドをお得に購入でき、環境を守ることにも繋がることが魅力。

SAMSELLにおける費用負担のイメージ



(出典) ウィファブリック提供資料

SAMSELLにおける取扱商品



(出典) SMASELLホームページ

(3) 事業のポイント

ウィファブリック：
オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」

- SMASELLは、出店費用の削減や在庫処分時のブランド価値の保護といったサプライヤーが抱える課題解決にも貢献している。
 - ✓ オンライン版アウトレットモールであるため、実店舗の出店時に必要となる出店費用や人件費、物流費を大幅削減できる。
 - ✓ 出品時に販売条件を付けることで条件にあったユーザーに対してのみ販売可能であり、ブランド価値の保護にも貢献。
- SMASELLに出品される商品の多くは、ユーザー購入時にサプライヤーからユーザーへ直接配送される。仮に売れ残った場合でもSMASELLが一括買取を行い、全ての商品を売り切ることで在庫消化率100%を達成している。
- 環境への貢献もアピールしており、①各商品のCO2削減量（廃棄を回避したことによる削減量）の表示、②店頭における洋服の回収ボックスの整備、③一部売上の環境保全団体への寄付、の3つの柱を掲げている。

サプライヤーの悩みとSMASELLの貢献ポイント



(出典) ウィファブリック提供資料

サステナブルファッションに関する3つの柱



スマセルに出店することでブランド価値を守り、廃棄せずに完売させることができます。

在庫消化率 **100%** を目指します！

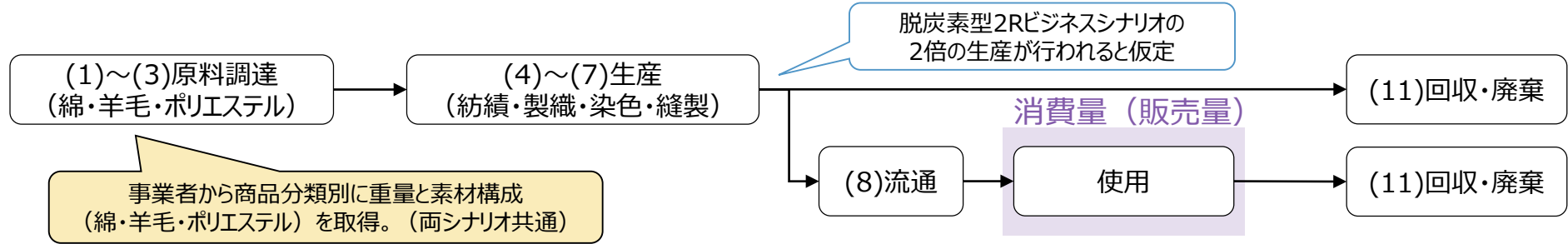
(出典) SMASELLホームページ

(4) 事業フロー（効果推計のためのシナリオ・①在庫ロス削減）

ウィファブリック：
オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」

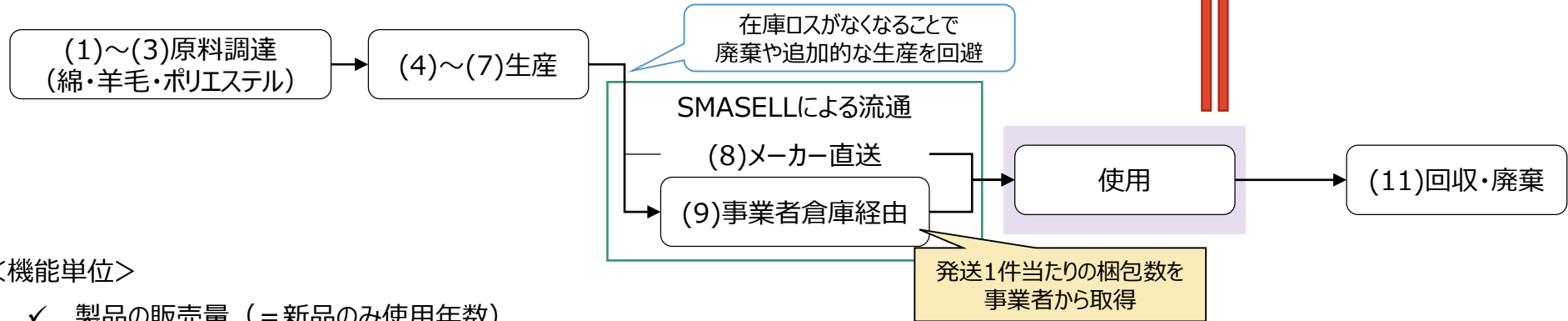
ベースラインシナリオ

メーカーで売れ残った繊維製品が焼却処理され、追加的な製品生産が行われる



脱炭素型2Rビジネスシナリオ

メーカーで売れ残ってしまった繊維製品がSMASELLを通じて取引され、使用後に廃棄されると想定したシナリオ



<機能単位>

- ✓ 製品の販売量（＝新品のみ使用年数）

<対象>

- ✓ 対象製品：オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」で1年間に取引された繊維製品。
- ✓ 対象範囲：繊維素材の原料調達から繊維製品の廃棄までの全段階。

ただし、脱炭素型2RビジネスシナリオではSMASELLの運営用のサーバー利用に伴う環境負荷は含んでいない。

(4) 事業フロー（効果推計のためのシナリオ・②リユース）

ウィファブリック：
オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」

ベースラインシナリオ

一度使用された製品は古着としてリユースされず、焼却処理される

新品に対する古着の残余寿命は60%と仮定し、
2.5倍の生産が行われると想定

使用年数（T年）

(1)～(3)原料調達
(綿・羊毛・ポリエステル)

(4)～(7)生産
(紡績・製織・染色・縫製)

(8)流通

使用

(11)回収・廃棄

事業者から商品分類別に重量と
素材構成（綿・羊毛・ポリエステル）を取得。
（両シナリオ共通）

【機能単位（製品の使用年数）】

ベースライン : $T年 = 0.4T年 \times 2.5回 (= 10/4回)$

脱炭素型2Rビジネス : $T年 = 0.4T年 + (1-0.4) T年$

使用年数を等価とする

(新品のみ使用（複数回生産）)
(新品+リユース品で1点使用)

脱炭素型2Rビジネスシナリオ

一度使用された製品はSMASELLを通じて古着としてリユースされた後に焼却処理される

使用年数（T年）

(1)～(3)原料調達
(綿・羊毛・ポリエステル)

(4)～(7)生産
(紡績・製織・染色・縫製)

(8)流通

一次使用

古着のリユースを通じて
廃棄や追加的な生産を回避

SMASELLによる二次流通

(8)メーカー直送

(9)事業者倉庫経由

二次使用

(11)回収・廃棄

発送1件当たりの梱包数を
事業者から取得

<機能単位>

- ✓ 製品の使用年数（脱炭素型2Rビジネスで消費される繊維製品1着の寿命）

<対象>

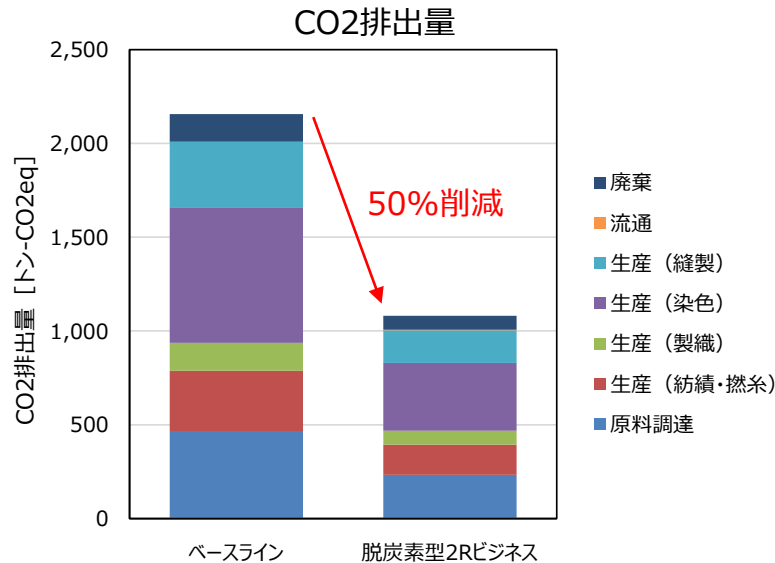
- ✓ 対象製品：オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」で1年間に取引された繊維製品。
- ✓ 対象範囲：繊維素材の原料調達から繊維製品の廃棄までの全段階。ただし、脱炭素型2RビジネスシナリオではSMASELLの運営用のサーバー利用に伴う環境負荷は含んでいない。

(5) 事業の環境面の効果（在庫ロス削減）

ウィファブリック：
オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」

脱炭素面の効果

- ✓ 脱炭素型2Rビジネスシナリオではベースラインシナリオと比べ、約50%のCO2排出量削減できると試算された。原料調達と生産段階（紡績～縫製）のCO2排出量の影響が大きいため、余剰な製品の生産を抑制できる脱炭素型2RビジネスシナリオではCO2削減効果が期待されることが分かる。



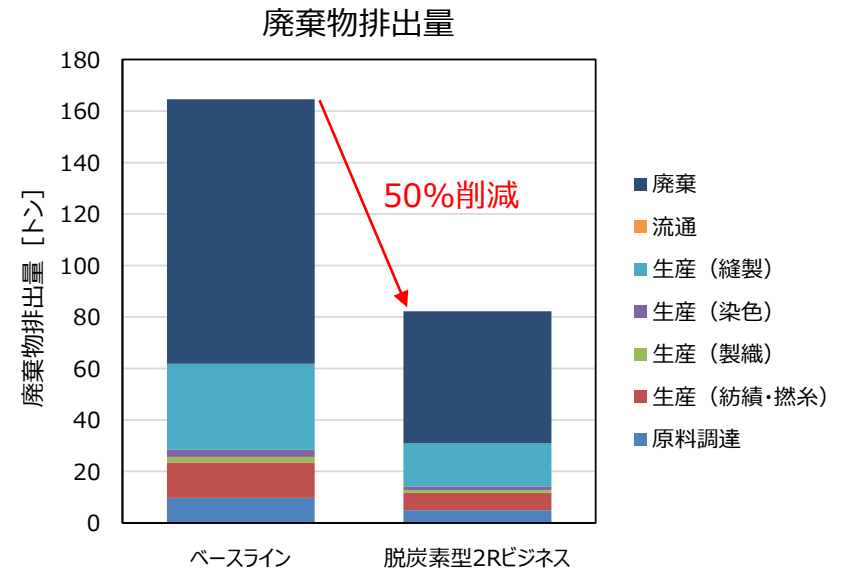
※SMASELL利用時のサーバーや倉庫の利用に伴うCO2排出量は考慮していない。

<算定条件>

- ✓ 活動量となる各商品の重量と素材構成（綿・羊毛・ポリエステル）はウィファブリック提供データ（商品分類別の代表値）を用いた。
- ✓ 原単位となる原料調達及び生産段階のプロセスデータは、経済産業省（2003）「繊維製品（衣料品）のLCA調査報告書 資料編」の値を用いた。流通段階の輸送のCO2排出係数は佐川急便の宅配便1件あたりのCO2排出係数を用いた。廃棄段階のCO2排出量については、各素材の焼却時のCO2排出を想定し、ウィファブリック提供データを用いた。
- ✓ なお、本来ベースラインシナリオの生産量は日本全体の総需要を考慮して設定することが望ましいが、簡単のため、2倍の生産が行われると仮定した。

資源循環面の効果

- ✓ 売れ残った繊維製品（新品）の廃棄を回避する共に、余剰な製品の生産を抑制することで、脱炭素型ビジネスシナリオはベースラインシナリオより約50%の廃棄物排出を削減できると試算された。



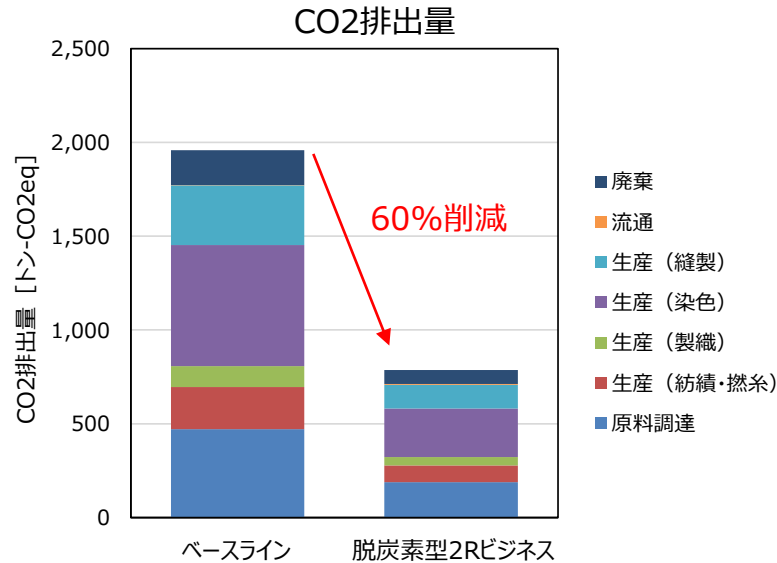
※天然繊維の原料栽培時の廃棄物排出量は考慮していない。

(5) 事業の環境面の効果 (リユース)

ウィファブリック：
オンラインマッチングプラットフォーム「SMASELL」

脱炭素面の効果

- ✓ 脱炭素型2Rビジネスシナリオではベースラインシナリオと比べ、約60%のCO2排出量削減できると試算された。原料調達と生産段階（紡績～縫製）のCO2排出量の影響が大きいため、余剰な製品の製造を行わない脱炭素型2RビジネスシナリオではCO2削減効果が期待されることが分かる。



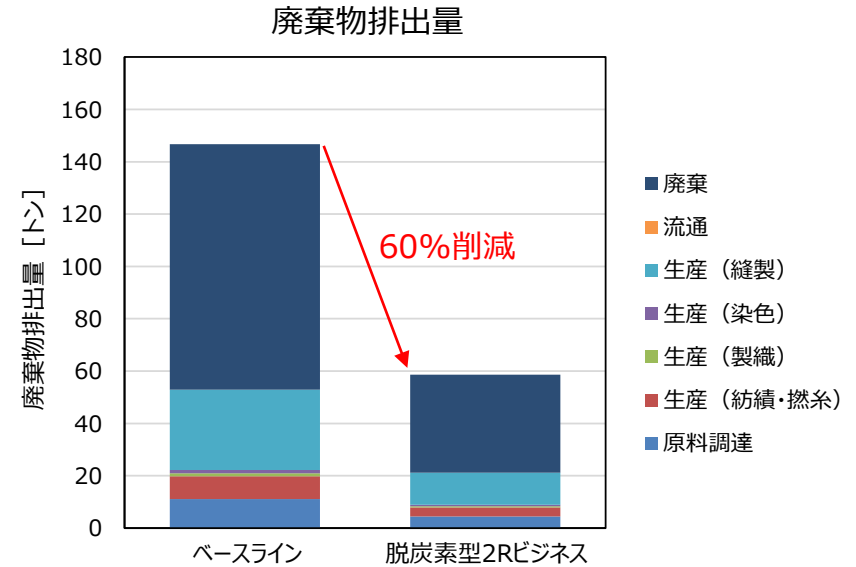
※SMASELL利用時のサーバーや倉庫の利用に伴うCO2排出量は考慮していない。

<算定条件>

- ✓ 新品に対する古着の残余寿命は60%と仮定し、ベースラインシナリオでは2.5倍の生産が行われると想定した。
- ✓ 活動量となる各商品の重量と素材構成（綿・羊毛・ポリエステル）はウィファブリック提供データ（商品分類別の代表値）を用いた。
- ✓ 原単位となる原料調達及び生産段階のプロセスデータは、経済産業省（2003）「繊維製品（衣料品）のLCA調査報告書 資料編」の値を用いた。流通段階の輸送のCO2排出係数は佐川急便の宅配便1件あたりのCO2排出係数を用いた。廃棄段階のCO2排出量については、各素材の焼却時のCO2排出を想定し、ウィファブリック提供データを用いた。
- ✓ 本来ベースラインシナリオの生産量は日本全体の総需要を考慮して設定することが望ましいが、簡単のため、2倍の生産が行われると仮定した。

資源循環面の効果

- ✓ 繊維製品（中古品）の廃棄を回避する共に、余剰な製品の生産を抑制できることで、脱炭素型ビジネスシナリオはベースラインシナリオより約60%の廃棄物排出を削減できると試算された。



※天然繊維の原料栽培時の廃棄物排出量は考慮していない。